新聞定価 朝夕刊月ぎめ 本体価格 3,738円(税込み 4,037円)、1部売り(税込み)朝刊 150円、夕刊 50円 第3種郵便物認可

わいせつ容疑の元講師 4年前も… 教員処分歴 共有どこまで

教え子の小学生への強制わいせつ容疑で、愛知県警に逮捕された臨時講師の男の公判が名古屋地裁岡崎支部で進んでいる。男は4年前にも別の小学校で性犯罪を起こし、停職処分を受けていた。男が名前を変えたこともあり、情報が共有されなかったという。

採用試験前に改名

男は大田智広被告(30)＝愛知県刈谷市。勤務していた同県知立市の市立小学校のトイレで5月、低学年の女子児童にわいせつ行為をした疑いで逮捕、起訴された。その後、別の児童計4人へのわいせつ容疑でも再逮捕されている。8月には懲戒免職処分を受けた。

8月の初公判では起訴内容について、「間違いありません」と認めた。検察側は、証拠調べの中で大田被告が「年少者に性的関心があった」と話したことを明らかにした。

大田被告は、知立の事件の前にも児童買春・児童ポルノ禁止法違反（児童ポルノ提供）の罪で罰金の略式命令を受けていた。埼玉県内の小学校に勤めていた2013年、児童ポルノ画像をメールで送った疑いで逮捕。埼玉県教委から停職6カ月の懲戒処分を受け、依願退職した。

知立市の小学校で再び教壇に立ったのは埼玉で事件を起こしてから2年後。大田被告は「知宏」から「智広」に改名。教員免許状の名前も変えて採用試験を受けた。教員免許は懲戒免職や禁錮刑以上の罪が確定すると失効する。だが、埼玉の事件は停職処分だったので免許を持っていた。

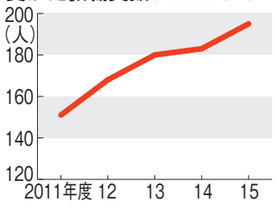
知立市教委の本多泰裕学校教育課長は「(犯罪歴を)知っていたら任用していなかっただろう。立ち直りへの配慮は必要。だが、わいせつ事案が起きれば子どもに影響する」。教員免許の失効は官報で公表されるが、停職以下の懲戒処分は報道頼みの部分もある。改名されたら把握は難しいという。

知立市教委は事件発覚後、面接時に処分歴を問うことも検討したが、断念した。地方公務員法は「懲戒免職処分から2年を経過しない者は職員になれない」と規定するが、それよりさかのぼるのは「人権上問題」と判断したという。

■わいせつ事案で懲戒処分になった教員の例

2007年11月	長崎県教委が十数人の女子児童の胸を触るなどした小学校教諭を懲戒免職
09年1月	大阪府教委がマッサージなどの名目で女子生徒の胸などを繰り返し触った中学校男性教諭を懲戒免職
12年10月	北海道教委が児童会館でのボランティア中に複数の女子小学生の胸を触った特別支援学校男性教諭を懲戒免職
16年10月	高知県教委が修学旅行中に男子小学生の下半身を触るなどした小学校教諭を懲戒免職
17年5月	堺市教委が女子生徒に要言を強発した男性教諭を懲戒免職

わいせつ事案で懲戒処分を受けた教職員数(文科省調べ)



夏夜に浮かぶ 物語

夏の夜空に巨大なちょうちんが浮かぶ「三河一色大提灯まつり」が26日、愛知県西尾市の諏訪神社で始まり、幻想的な光景を見ようと多くの人でにぎわった。魔よけの神事でたいていたかがり火が、江戸時代にちょうちんに変化したという。大きいもので長さ約10㍍、直径約5.6㍍。午後7時過ぎ、12張りのちょうちんにろうそくの灯がともり、神話や歴史の絵図が浮かび上がった。祭りは27日まで。（吉本美奈子）

公表 教委ごとに違い

文部科学省には教員免許の管理システムがあり、改名しても免許状番号や授与年月日が引き継がれる。ただ、処分情報は掲載されない。情報共有について、文科省の担当者は「処分の公表や基準が教委ごとに違い、検討課題」と慎重だ。

右崎正博・独協大学名誉教授（憲法）は「忘れられる権利と知る権利のどちらを優先させるかを個別に判断するしかない」と話す。知立の事件については、「知る権利が優先されるべきでは」と指摘する。再発防止のために、教員免許状を出した教委がわいせつ関連の処分歴に限って一定期間保存し、採用などで照会があれば回答する仕組みを提案する。ただ、「犯罪や処分は多種多様。何でも保存対象にしてはならない」とも話した。（日高奈緒、田中恭太、増田勇介）

英では証明書提出

性犯罪者らの治療に取り組む「性障害専門医療センター」代表理事の福井裕輝医師は「小児性愛者を学校で勤務させるのは、アルコール依存症の患者をバーに連れて行くようなもの」と例える。

米国には、教員志望者に小児性愛傾向があるかどうかを試験するテストができるという。福井医師は「日本での導入には抵抗も大きいだろう」と指摘。その上で「テストを受けた本人のみが結果を見ることができるようにし、もし小児性愛傾向がある場合は治療機関へつなげる仕組みを作ったりするなど、人権侵害を避けて被害を防ぐ方法はある」と提案する。

鹿屋体育大学の森克己教授（スポーツ法学）によると、英国では子どもとふれ合う仕事に就く場合、政府機関が発行する犯歴証明書の提出が必要だという。森教授は「性的虐待以外にも体罰やネグレクトの前歴がある人は子どもに近づく仕事はできない。日本でも同様の仕組みを検討するべきだ」と話す。

窓 母と2人の父 私がいる

結婚式の時に撮ったとみられる衛藤美和子さん（左）と祐二さん（中）、慎輔さん（右）の家族＝慎輔さん提供

あなたには、別にお父さんがいるのよ――。

《東京都世田谷区に暮らす衛藤慎輔さん(71)は、10年ほど前、母の美和子さんからそう告げられた》

がんで闘病中だった母は、私に打ち明けてまもなく、82歳で亡くなった。

その後に親族から聞いた母の歴史は、知らないことばかりだった。

最初の結婚は、戦況が厳しくなっていた1945年の七夕。夫の名は衛藤圭一。戦争中に作られた「軍需省」に勤める役人で、お見合い結婚だった。東京で式を挙げてすぐ、転勤で夫婦そろって引っ越したのが、広島だった。

8月6日。2人の暮らす街に、原爆が投下された。母は自宅で、夫は通勤中に被爆した。再会して喜んだのもつかの間、夫は11日、26歳で息をひきとった。1カ月と4日の結婚生活。母は22歳。おなかには新しい命が宿っていた。私だ。

東京に戻った母は7年後、再婚した。相手の名は衛藤祐二。亡くなった夫の、実の弟だった。私は当時6歳。衛藤家の大切な「跡継ぎ」として、夫婦に育てられた。

私にとっての父は、衛藤祐二だ。

小さいころは、男2人で山登りによく行った。富士山、白馬、八ケ岳……。口数が少ない父だった。黙々と山道を歩き、2人で日の出を拝んだ。自動車設計の技術者で、家でもラジオを組み立てたり、車を整備したり。そんな姿を見て、私は電気工学の道を志した。

だが、大学受験で取り寄せた戸籍謄本を見て、驚いた。父親の欄には、伯父と思っていた「圭一」の名前があった。戸惑ったが、互いにいたわり合う両親の姿をみると、言い出すことはできなかった。20年前、父は76歳で亡くなった。

母の死後、生前に母が残していた手記を読んだ。

――子どもが病気する度に、普通以上の心配をしましたが、無事成人し、私も病院通いをしながら、70歳を超え、二度の大病も何とか乗り越え、現在に至っております

父と母は、子をつくらなかった。私を一人息子として、一心に育ててくれた。なによりも、私を一人前にするために、2人は結婚してくれたのではないか。

いま、筋力が低下する難病と闘っている。歩行器を使わなければ、移動もできない。でも、前を向き、気丈に生きたい。父や母と、同じように。（岡本玄）

海自ヘリ 青森沖で不時着水

防衛省によると、26日午後10時50分ごろ、青森県の津軽海峡西方の海域で、4人乗りの海上自衛隊のヘリコプターが海上に不時着水し、1人が救助されたが、機長の3等海佐を含む3人の行方が不明だという。救助された1人は病院に搬送されたが、命に別条はないという。洋上で護衛艦への着艦訓練中だったという。

遺族「納得はしていない」

高山・入所者死傷 介護施設の説明に

岐阜県高山市の介護老人保健施設「それいゆ」で入所者5人が相次いで死傷した問題で、施設側は26日、死亡した中江幸子さん(87)の遺族に対し、亡くなるまでの経緯や介護の状況を説明した。遺族は報道陣の取材に「納得はしていないが、申し訳なかったという気持ちは伝わった」と話した。

中江さんは12日に呼吸困難となり、13日夜に外傷性血気胸で死亡した。解剖の結果、折れた肋骨が肺に刺さるなどしていた。

中江さんの孫によると、説明は施設を運営する医療法人の折茂謙一理事長からあり、入浴の介助で強く抱きかかえた際に、骨にひびが入り、徐々に容体が悪くなった可能性があるなどと言われ、「事故というような感じ」と受け止めたという。孫は「納得はしていないが、今後は警察の捜査を見守ることで、施設側と意見がまとまった」と話した。

施設側は27日に、死傷者以外の入所者の家族にも、一連の問題の経緯を説明する。

追突 ブレーキ痕なし

徳島の事故 バス、40㍍押される

徳島県鳴門市の徳島自動車道で25日夕、大型トラックに追突されたマイクロバスの運転手と高校生の2人が死亡、14人が重軽傷を負った事故で、追突したとみられる地点よりも手前の路面に、ブレーキ痕が残っていないことが捜査関係者への取材でわかった。県警は、トラックの運転手が追突直前までブレーキを踏んでいなかった疑いがあるとみている。

県警によると、トラックを運転していた運送会社「東西物流」（松山市）の菊池誉司容疑者(50)＝自動車運転死傷処罰法違反（過失運転致死）の疑いで現行犯逮捕＝は容疑を認めているという。

亡くなったのは、バス運転手の岡本勉さん(30)と県立富岡西高校1年の森下汐音さん(15)。事故当時、マイクロバスは車線左側の路肩（幅6・1㍍）に停車していた。

また、捜査関係者によると、トラックは追突後にバスを約40㍍にわたって押し出し、バスがガードレールをなぎ倒して数㍍下の斜面に転落した後も、さらに約20㍍進んで止まったという。県警は、トラックがかなりの速度で追突した疑いがあるとみて事故の経緯や原因を詳しく調べる。

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局

市民公開講座

「腎臓病・糖尿病に負けない生き方2017」

350名様無料ご招待! この機会にぜひご参加ください!

腎臓病の症状は悪くなってもあまり自覚症状がなく見過ごされるケースが多くあります。
腎臓病の早期発見と治療を呼びかける専門医による講演会を開催します。
日常の注意点から治療方法まで、役立つ情報が満載です。

プログラム

●開会あいさつ 名古屋大学 腎臓内科学 教授 丸山 彰一先生

講演1 CKD(慢性腎臓病)について
「腎臓を守って長生きしよう」(20分)

講演2 糖尿病性腎症について 藤田保健衛生大学 腎内科 教授 湯澤 由紀夫先生
「糖尿病からあなたの腎臓を守りましょう!」(20分)

講演3 運動療法について 金沢大学附属病院 血液浄化療法部 准教授 古市 賢吾先生
「体験しよう! かんたんエクササイズ」(20分)
名古屋大学 医学部附属病院・リハビリテーション部 永谷 元基先生

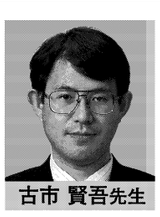
～ 休 憩(20分) ～

講演4 難治性腎症について
「腎臓の難病ってなに?~ネフローゼ・多発性嚢胞腎ってどんな病気?~」(20分)

講演5 血液透析・腹膜透析・腎移植について 名古屋大学 腎臓内科学 講師 坪井 直毅先生
「腎不全と言われたら」(20分)

講演6 食事療法について 名古屋大学 腎臓内科学 教授 丸山 彰一先生
「腎臓にやさしい食事」(20分)
名古屋大学 医学部附属病院・栄養管理部 田中 文彦先生

※プログラム及び講師につきましては変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

湯澤 由紀夫先生

古市 賢吾先生

永谷 元基先生

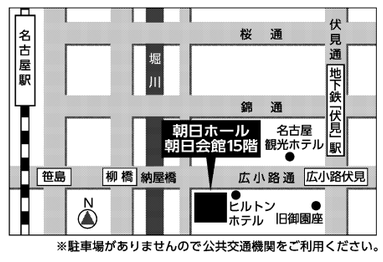
坪井 直毅先生

丸山 彰一先生

田中 文彦先生

とき 9/16(土)
12:00開場 13:00開演
[15:25終了予定]

ところ 朝日ホール
名古屋市中区栄1-3-3 朝日会館15階
＊地下鉄東山線・鶴舞線「伏見」駅下車 7番出口を西へ徒歩3分
＊JR「名古屋」駅下車徒歩15分



※駐車場がありませんので公共交通機関をご利用ください。

◎主催 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)「難治性腎疾患に関する調査研究」班／日本医療研究開発機構研究費(難治性疾患等実用化研究事業(腎疾患実用化研究事業))「糖尿病性腎症の進展予防にむけた病期分類－病理－バイオマーカーを統合した診断法の開発」班／日本慢性腎臓病対策協議会(J－CKDI)
◎後援 朝日新聞社メディアビジネス局

応募方法
郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望人数(5名様まで)を明記の上、往復はがき、FAX、e-mailのいずれかで下記のあて先までお送りください。
※往復はがきで応募の方は、返信用はがきにもあなたの郵便番号、住所、氏名を記入。

あて先
◎往復はがき 〒466-8550
名古屋市昭和区鶴舞65番地
名古屋大学医学部附属病院 腎臓内科
「腎臓病・糖尿病セミナー」係
◎FAX 052-744-2209
◎e-mail jin-shogai@med.nagoya-u.ac.jp
※応募締め切り／9月5日(火)必着
応募多数の場合は抽選とします。
当選者の発表は招待状の発送をもってかえさせていただきます。
※お送りいただきました個人情報は、名古屋大学でとりまとめ、案内状の発送および個人を特定しないデータとして利用させていただきます。

お問い合わせ先
名古屋大学医学部附属病院 腎臓内科
TEL(052)741-2111(代表)
9:00～17:00(土・日・祝を除く)